

第30回日本臨床微生物学会教育セミナーアドバンストコース開催報告

日 程：令和6年10月12日（土）13時～18時

開催形式：ハイブリッド開催（AP品川アネックス会場＋Web配信）

担 当：藤谷好弘（札幌医科大学医学部 感染制御・臨床検査医学講座）

小池祐史（日本医療大学 保健医療学部 臨床検査学科）

テ ー マ：「検査室から臨床現場、そして公衆衛生に貢献する臨床微生物学」

プログラム

12:20～13:00 受付

13:00～13:10 開会式 教育委員会委員長 大毛宏喜

13:10～14:40 レクチャー 座長：大毛宏喜（広島大学病院 感染症科）

13:10～13:55 レクチャー①： 塚田敬子（国立感染症研究所 実地疫学研究センター）

砂川富正（国立感染症研究所 実地疫学研究センター）

「Surveillance! Surveillance!! Surveillance!!!

～感染症発生動向調査事業をご存じですか?～」

13:55～14:40 レクチャー②： 明田幸宏（国立感染症研究所 細菌第一部）

「病原体サーベイランスによる感染症の動向把握」

14:40～15:00 休憩

15:00～17:55 症例提示・グループディスカッション

■症例提示① 北川浩樹（広島大学病院 感染症科）

「下咽頭喉頭全摘・遊離空腸再建術後に複数菌による菌血症を繰り返した症例」

【要旨】この症例は、下咽頭喉頭全摘と遊離空腸再建を施行後、嫌気性菌を主体とした菌血症を繰り返した患者です。初回入院時の血液培養では、*Parvimonas micra*、*Solobacterium moorei*、*Prevotella buccae*が検出され、スルバクタム・アンピシリンで治療を行い軽快しました。しかし、その後再度発熱し、再び血液培養が陽性となりました。今回の血液培養結果では、*Staphylococcus aureus*、*Klebsiella pneumoniae*、*Streptococcus mitis/oralis*が分離されました。感染源を再評価した結果、頸椎椎体炎および硬膜外膿瘍が疑われ、MRIにて確定診断に至りました。上部消化管内視鏡では、シャント造設部の対側に陥凹部を認め、その部位に膿の付着が確認されました。この結果から、気管-空腸シャントの対側の空腸穿通による頸椎椎体炎および硬膜外膿瘍と診断されました。

■症例提示② 寺田教彦（筑波メディカルセンター病院 / 筑波大学）

「小児における *Salmonella* Poona 菌血症」

【要旨】この症例は、腸内細菌目細菌が原因と考えられる小児の菌血症です。1歳半の患児に対して抗菌薬選択を行う際、小児におけるセフトリアキソンの使用制限

を考慮し、セフトキシムを用いて治療が行われました。小児における治療薬選択の特殊性について議論する良い機会となった症例です。原因菌の同定において、試験管培地での生化学的性状、その後 SS 寒天培地および DHL 寒天培地の結果からサルモネラ属が疑われ、自動同定機器によりサルモネラ属であることが確認されました。血清型検査により、O 抗原および H 抗原を確認し、最終的に MLST(多遺伝子シーケンスタイピング)の結果、*Salmonella* Poona と確定しました。*Salmonella* Poona は、ペット(特に爬虫類やカメ)、食事、調理器具が感染源となることが知られており、家族には感染源に関する慎重な説明が必要であることが強調されました。今回の症例を通じて、再発性の感染症における病態把握の重要性や、小児における抗菌薬選択の特殊性について再考するきっかけとなりました。

■グループディスカッション

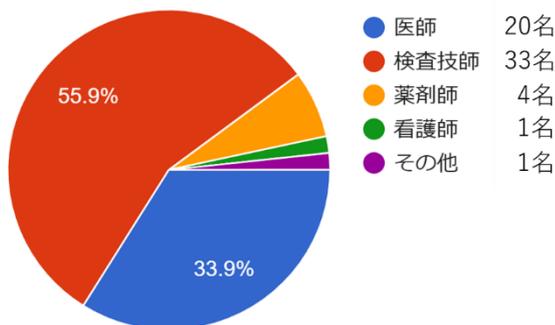
- Zoom のブレイクアウトルームを利用してディスカッションを実施
- グループはファシリテーター、受講者 6~7 名で構成
- 現地 2 グループ、Web 7 グループ
- 医師、臨床検査技師、薬剤師、看護師など多職種で構成され、診療、検査、治療などのマネジメントについてディスカッションを行った。



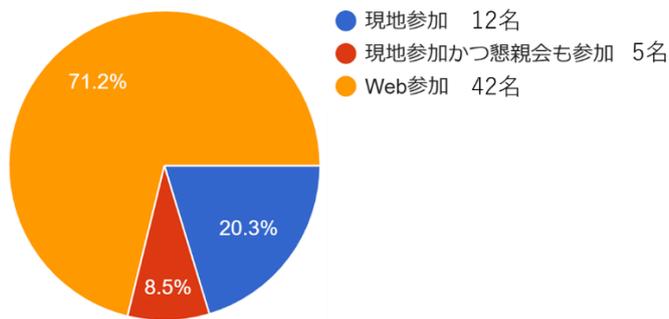
17:55~18:05 修了式

19:00~ 懇親会(受講者 8 名, 運営委員 13 名参加)

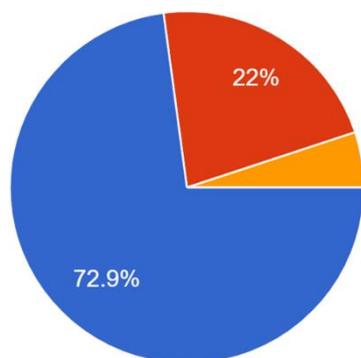
【受講者の内訳】



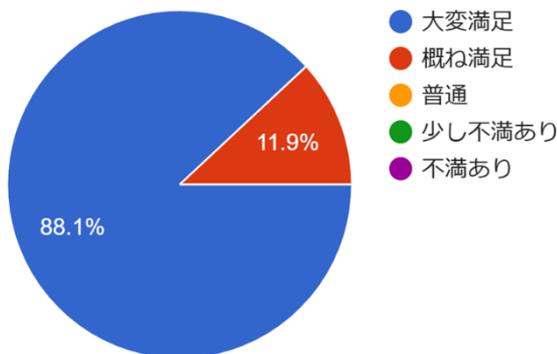
【受講方法】 ※実際には懇親会に受講者 8 名参加



【レクチャー（前半）の内容】



【症例検討（後半）の内容】



【参加者の声（アンケート結果より）】

- ・サーベイランスにおいて、臨床での報告がどのようにまとめられて、還元されているのかがわかり、重要性を改めて実感できた。
- ・行政検査の流れに興味があったので、興味深く聞かせていただきました。
- ・レクチャーは普段の臨床業務では触れる機会が少ない内容で、とても新鮮に感じました。
- ・検査技師さんからのご意見が沢山聞けて大変勉強になりました。検査技師さんとのコミュニケーションの重要性が良く分かりました。
- ・他職種の方の考え方を聞くことができ、臨床が求める情報を知ることができ良かったです。
- ・通常の講演と異なりディスカッションがとても新鮮で、沢山の先生方の意見を聞くことができ大変勉強になりました。
- ・選択培地に頼り切っては見落とす症例も出てくるので、勉強し直そうと思った。
- ・マニアック過ぎず各職種からの視点で意見交換できる症例で、とても勉強になりました。
- ・症例検討が難しいのではないかと思いましたが、医師や臨床検査技師の方がどのような視点で考えているのかを知ることができて非常に有意義でした。自施設での他職種とのコミュニケーションに活かしていきます。
- ・初対面の方とのグループワークが苦手なので、普段思いつくようなことがなかなか意見として出せなかった。あとから落ち着いて考えると、こういう考え方もあったなと思えるので、経験が必要だと感じた。一つのテーマで多職種の意見、考え方が聞けることは貴重なので今後も勇気を出して参加してみたい。

- 症例について医師がどのように考えるか、検査室からどのような情報を欲しているかを知ることができ勉強になりました。
- ファシリテーターの方が丁寧に進行してくれたのでとてもやりやすかったです。
- グループの人数も丁度良く、活発な意見交換ができたように思います。
- インタラクティブで大変興味深かったです！
- 大変有意義な時間でした。グループのファシリテイトの先生並びに皆様に感謝です。
- Web参加も可能ということで参加しやすかったです。
- またハイブリッドが良いかもしれません。

現地受講者, ファシリテーター, 運営委員



グループディスカッションファシリテーター, 運営委員 (五十音順)

大毛宏喜 (広島大学), 岡本 耕 (東京科学大学), 片山充哉 (国立病院機構東京医療センター), 金子幸弘 (大阪公立大学), 北川浩樹 (広島大学), 倉井華子 (静岡県立静岡がんセンター), 小池祐史 (日本医療大学), 佐々木雅一 (東邦大学医療センター), 静野健一 (千葉市立海浜病院), 渋江 寧 (横浜市立みなと赤十字病院), 鈴木 純 (岐阜県総合医療センター), 関谷紀貴 (東京科学大学), 寺田教彦 (筑波メディカルセンター病院/筑波大学), 中山麻美 (東北大学), 浜田幸宏 (高知大学医学部附属病院), 福島一彰 (がん・感染症センター都立駒込病院), 藤田崇宏 (国立病院機構北海道がんセンター), 藤谷好弘 (札幌医科大学), 森 伸晃 (昭和大学)

文責：藤谷 好弘